



「仙台別院」研修旅行参加者

寺婦のひろば

第 17 号

山陰教区
寺族婦人会連盟

題字：鷺谷良子

2014 (平成26) 年9月9日(火)~11日(木)
「仙台別院参拝と被災地復興応援」研修旅行



ひらかれた寺院をめざして

山陰教区教務所長 中尾 了信

宗派では、二〇一二年四月から「御同朋の社会をめざす運動」(実践運動)が始まり、当山陰教区では「日常の寺院活動・地域と寺院のつながりを大切にすることを目標に推進していただいております。これは、地域の人が訪れやすい寺院の環境をつくることによつて、お寺を中心とした新たなコミュニケーションづくりをめざす活動です。

現代は、過疎化や少子高齢化・核家族化がすすみ、個人を中心とする生活が増えるなど、社会構造の変化が顕著になっていきます。一人暮らし世帯がますます増えているそうです。

さて、昨年九月寺族婦人研修旅行に、東日本大震災被災地の復興応援を目的として、二十余名の方が本願寺仙台別院と被災地に行ってくださいました。そこには、遅々として進まない復興事業と、帰りたくても帰れない我が家、家族が離ればなれに暮らす現実があります。「わたしの居場所」がなくなつたのです。

私は、二十代の頃しばらく一般企業に勤めておりました。営

業活動もありました。冬の季節、夜遅くまでご家庭への訪問活動をしていきますと、家の灯り、家庭の温かさが身に染みる思いがいたしました。

一人暮らしの帰宅した時の暗さ・冷たさを思う時、人々にはどこかで明るさ、温かさを求めていることと思います。

寺院は、常に門や本堂の扉を開け、いつ、どなたが見えてもお迎えできることが大事なことでと考えます。「お寺へ行けば、坊守さんがいる。誰かがいてくれる。そして、何でも聞いてくれる」と、信頼して来てくださる場所、それが寺院にできることではないでしょうか。しばらくの間でも「わたしの居場所」を提供できるのが寺院であつてほしいと思います。

寺族婦人のみなさまには、お寺が地域の中で人と人のつながりの場所として機能していくように、手を合わしお念仏申す場所がずっと続くように、引き続きご尽力賜りますようお願いいたします。

合掌

写真で見る

研修旅行記録

～「仙台別院参拝と被災地復興応援」研修旅行～

2014(平成26)年9月9日(火)～11日(木)

◆ 行程 ◆

9/9(火) 各地 ————— 仙台別院・参拝 ————— 南三陸町(泊)
 9/10(水) ホテル — 南三陸・視察 ——— 気仙沼・視察 ——— 鳴子温泉(泊)
 9/11(木) ホテル — 各地観光 ——— 仙台駅・仙台空港解散 — 帰路各地



仙台別院



仙台別院ご輪番より現地状況や災害ボランティアセンターでの支援の取り組みなどについてお話をいただきました。



災害ボランティアセンター見学



教化センター。この上の階はボランティアをされる方の宿泊施設としても使われています。



支援金で購入されたマッサージチェアもあり、ここでお茶会が開かれているそうです。山陰のお菓子も好評でした。



津波が押し寄せ多くの被害があった石巻市釜谷の旧大川小学校



大川小学校 慰霊碑の前でおつとめ。先生・生徒全員が亡くなられたと聞き胸がいたみました。



9月10日(2日目)
南三陸町。
各所に津波の爪痕が
残ります。



海岸からおよそ200メートルの場所にある高野
会館。震災当時、およそ300人の人が中にいまし
たが、屋上などに避難し全員救助されました。



およそ海拔15mの高台にある南三陸町立戸倉中学校。近くにある戸倉小学校は
屋上まで津波に呑み込まれ、中学校も校舎の1階部分まで浸水しました。



南三陸町防災対策庁舎。津波が押し寄せる
まで防災無線放送で高台への避難を呼びか
けておられた方の責任感の強さ、そして津
波の脅威をあらためて強く感じました。



復興事業の様子を見渡せるように気仙沼市鹿
折地区に設置された見学台



見学台でガイドの方のお話を聞きました。この
見学台は、津波で打ち上げられた大型漁船があ
った場所の近くに設置されました。



安波山からのぞむ気仙沼の街。各所がかさ上げ工事が行
われている様子がわかります。

見学台に登ると、この周辺のかさ上げ
工事の様子が一望できました。



「東北の無常」

鹿足組 浄念寺前坊守

陶山法恵

今年度は九月九日から十一日まで三日間「東北被災地研修」を計画し二十二名の参加で研修旅行を致しました。

初日は仙台別院に現地集合し、ご輪番より被災当時の事、現在の地域との関わり等々お話いただきました。ボランティアは三年たった今でもグループを組み泊まり込みで来られ、それに対応できる宿泊施設は十分とは言えないように感じましたが、それでもかなり整っておりました。その中でマッサージ椅子、台所用品等々は全国の仏婦の皆様からの寄付によるものでありました。皆様のお志はこのよう形でしつかり生かされており、お役に立てられている様子がよくわかりました。その後いよいよ現地に入りました。南三陸町は今でも酷く街の全てが失くなつており、残っているのは住宅の基礎部分のみです。まだまだ復興の様子は感じられませんでした。大川小学校ではお勤めをし、偲ばせていただきました。バスのガイドさんもちろん被災者の方でしたが、私達の勤行する姿を見られて「やはりお寺さんのツアーは違いますね、お経をあげていただき心が洗われました。」とお礼を言われました。現地のバスの中では、「かたりべ」さんが厳しい現状を説明してくださいました。その方は震災によりご主人もご両親も亡くされましたが、

浄土真宗のボランティア支援で聴聞のご縁があり息子さんがそのご法話にととても感動されたのだそうです。

その後亡きご主人に宛てた手紙が「あなたへの恋文」という本となり支援されたご住職の勧めにより、なんと、この四月から中央仏教学院に入学

「おちよびなごうじい」

江津組浄光寺坊守

能美 ゆかり

三月十一日(東日本大震災)以前、私にとつて東北地方は県名もその場所もあやふやで平面のような存在でした。それまで活字や映像で目にしたことがあつても行つたこともなく、思い当たる親戚や知人もいないのです。

あの日以来テレビの画面に次々映し出された地震、火災、津波。そして福島原発。まるでSF映画を見ていようでした。色々な情報がこれでもかというほど次々にもたらされ、頭の中はぐちゃぐちゃ。人々の悲しみ苦しみが伝えられ、大変だと慄きながらも、混乱して正直どこか遠くの出来事という感覚がありました。

実は、東日本大震災三回忌追悼法要が仙台市若林区の祐善寺で勤修された折も個人でお参りしましたが、二年経つても海岸部の交通網はズタズタで被災地まで入ることは無理でした。この度、山陰教区の寺族婦人会研修旅行で「仙台別院参拝と被災地復興応援」―南三陸町・気仙沼視察―が企画

されたのです。現在は残された息子さんと三代続いた酒店を仮設店舗にて経営されています。ちなみに東北の地の信仰は殆どが曹洞宗だそうです。その中で浄土真宗に出遇われ、み教えを糧に頑張られている姿を見させていただき、現実の厳しさの中につくづく

され、前回断念した被災地でお参りたいという希望がかないました。お骨折りにいただいた皆様ありがとうございました。今回訪ねてみると南三陸も気仙沼も日本中どこにでもある普通の漁村で山陰の港町に不思議なくらい似ていました。

顔と顔を合わせて語り部さんの体験談をお聞きし、復興にはほど遠い盛り土だらけの被災現場を目にして、3・11がやつと一人ひとりのいのちとくらしの問題として五感で受け止められたような気がします。

百名余の全校児童がほとんど逃げて亡くなったあの、大川小学校も入院患者七十二名職員三名が亡くなった志津川病院も、住民に最後まで避難を呼びかけながら職員二十名が亡くなった防災庁舎もここにあつたのかと目で確かめ、涙を流しながら手を合わせる事ができました。SF映画の中のようなあやふやな場所が確かに存在した現実一つ一つの点として確かめられた体験でした。

現地はまだ工事に使うプラントができ始めたばかりで、プレハブの仮設住宅も狭く不便なように見え、一向に進まない復興に前が見えない苦しさから中には自暴自棄になる人もいますと聞きました。どうぞ速やかな復興と

「無常」を味わい思いを共有させて頂いたことは、この研修旅行で一番の喜びであり、また今こそ浄土真宗の出番であることが確信できました。一步を共に歩みだしましょう。この研修の機会を戴きましたこと、諸共に有難うございました。 合掌

安心できる日々の暮らしが戻りますように願わずにはいられません。

とこころでこの旅で一番嬉しかったことは浄土真宗のみ教えが東北の地でしつかり働いていること。仙台別院は災害ボランティアセンターとして改修され、茶話会やボランティア宿泊受け入れなど宗派内外を問わず開放された活動拠点になっています。沢山の一般人が別院を頼りに訪れ、お寺に親しんでいます。全国から届くお菓子を持つて九ヶ所の避難所を訪ねる茶話会もあるそうです。又、読経ボランティアとして訪問の中、浄土真宗の寺院が少なくご法話に遇う機会がなかった東北の人々に聞法のご縁があり、中央仏教学院の通信教育を受け始めた人もいました。被災地に別院があつてよかったです。真宗があつてよかったです。と心から思いました。

たくさんのお土産物をお土産に帰宅して思うこと。まず忘れないこと。自分のできる支援を考えること。被災地の観光や物産購入をみんなに勧めること。など肝に銘じた今回の研修旅行でしたが、何と云っても東北に行きたい一心で決して若くない二十二名の山陰教区寺族婦人が仙台空港に現地集合したこと。流石でした。 合掌

「平成二十六年度若寺婦研修会に参加して」

大田中組願龍寺 吉 田 美穂子

梅の花がそろそろ咲き揃い、久しぶりに暖かく春を感じることできた日に、私の地元である「世界遺産石見銀山」の銀山地区にある西本寺様を会所にして、若寺族研修会があり参加させて頂きました。

後先も無い程、研修会当日は素晴らしいお天気で、遠近各地から参加された若寺婦の皆様は(二四名)受付を済ませると、今日のお天気は日頃の行ないのお陰と、密かにあるいは大つぱらに、まずはお互いにあいさつがわりに話されていたようです。その後は西本寺様の庫裡で、お抹茶の接待を受け、落ち着いた気持ちで研修会が始まるのを待たせて頂きました。

開会式後、西本寺前住職西本俊司先生が「法灯の続く陰に」という講題でご法話をして下さいました。先生が古文書や古地図



を元に調べられた銀山にまつわるお寺のことや、「石見銀山ガイドの会」を立ち上げられたご経歴を元にされたお話、さらに「その時歴史は動いた―石見銀山編―」とタイトルを付けたくなるようなお話は、まるで学生時代に戻り歴史の講義を受けているようで、ずつと聴いていたい程おもしろかったです。

ご法話の終わりに、お寺で暮らす者として「心温かい笑顔」や「環境を整える」こと、さらに「門戸を開く」ことを常日頃から実行すること教えて頂き、改めて自分の日常の行ないを振り返らせて頂きました。

午後からは、満行寺住職小笠原寧之先生に「蓮弁」作りを教えて頂きました。手ぬぐいを使い微妙な力加減で半紙の花びらに皺をつけるのが非常に難しく、先生が作られたお手本のように美しくできなかったのが、今年の自坊のほんごさんまでには、きれいに作れるようになりたいと思いました。

なかなか上手くはできませんでしたが、私の班は笑いが絶えず楽しく作業ができたかったです。

最後になりましたが、今回の研修会でご縁のあった皆様に感謝を致しますと共に、また皆様と笑顔でお会いするのを心より楽しみにしております。

本当にお世話になり、ありがとうございました。合掌

東北ボランティアセンターへお茶会支援 (平成25年度第2回)

平成26年4月3日送付(菓子送付)精算書

品名	金額(円)	備考
いしはら 沖の石	10,500	100個
風流堂 ころがねもち	8,100	50個
お菓子の寿城 梨ラングドシャ	11,700	180個
因幡の白ウサギ	10,800	100個
宅急便	3,672	
合計	44,772	

2014(平成26)年度 教区仏婦連盟緊急ダーナ現況報告

それぞれの災害に対し各教区へ見舞金を送付いたしました。

	(円)
安芸教区豪雨災害	100,000
四州教区	50,000
兵庫教区	30,000
京都教区	30,000
長野教区地震災害	50,000
合計	260,000

謹啓
陽春の候、益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。このたびは、東日本大震災復興支援へのご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

当ボランティアセンターでは、皆さまからのご協力得て、現在も地域自立支援活動、お茶会活動、居室訪問活動、子どものコミュニケーションのサポート、流入物撤去作業・農地復旧支援活動等を継続して行っております。

また、ボランティアの皆さまにご利用いただけるよう、情報収集並びに宿泊施設の運営・環境整備にも取り組んでおります。

つきましては、今後とも更なるお力添えを賜りますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

時節柄、御身御自愛専一を念じあげ、御礼にかえさせていただきます。

二〇一四(平成二六)年四月 東北教区現地緊急災害対策本部長 合掌
誠(に有難)うございませう、も頂戴いたしまして、 展 利 信
くががもちのエピソードと共に、お茶会に集まらるへ、属け、いたします。

2013(平成25)年度山陰教区寺族婦人会連盟歳計決算

歳入の部

款 項	費目	25年度決算	25年度予算	対比△減	説 明
1	会費	495,000	493,500	1,500	
1	本年度	495,000	493,500	1,500	1,500円×330単位分
2	過年度	0	0	0	
2	1 助成金	200,000	200,000	0	教区助成金
3	回金	0	0	0	
1	教区より回金	0	0	0	本年度なし
2	特別会計より回金	0	0	0	本年度なし
4	1 参加費	232,000	210,000	22,000	若寺婦研58,000円、 寺婦研174,000円
5	1 雑収入	110,694	6,713	103,981	若寺婦研25,000円、 寺婦研85,694円
6	1 前年度繰越金	249,787	249,787	0	
	合計	1,287,481	1,160,000	127,481	

歳出の部

款 項	費目	25年度決算	25年度予算	対比※超過	説 明
1	1 研修費	545,667	550,000	4,333	寺婦研309,187円、 若寺婦236,480円
2	1 会議費	213,700	350,000	136,300	監査・代表者会・ 編集・常任委員会
3	1 事務通信費	74,010	100,000	25,990	郵券料・事務消耗品
4	1 教化費	52,500	70,000	17,500	寺婦のひろば発行経費
5	1 回金	30,000	30,000	※0	特別会計への回金
6	1 諸費	10,000	30,000	20,000	仏婦中四国大会祝い金
7	1 予備費	64,460	30,000	※34,460	東北24,100円・中村記 念館40,360円
	合計	990,337	1,160,000	169,663	

歳入	1,287,481
歳出	990,337
差引残額	297,144

2014(平成26)年度山陰教区寺族婦人会連盟歳計予算

歳入の部

款 項	費目	26年度予算	25年度予算	対比△減	説 明
1	会費	495,000	493,500	1,500	
1	本年度	495,000	493,500	1,500	1,500円×330単位分
2	過年度	0	0	0	
2	1 助成金	200,000	200,000	0	教区助成金
3	回金	0	0	0	
1	教区より回金	0	0	0	本年度なし
2	特別会計より回金	0	0	0	本年度なし
4	1 参加費	220,000	210,000	10,000	研修会参加費
5	1 雑収入	7,856	6,713	1,143	
6	1 前年度繰越金	297,144	249,787	47,357	
	合計	1,220,000	1,160,000	60,000	

歳出の部

款 項	費目	26年度予算	25年度予算	対比※超過	説 明
1	1 研修費	550,000	550,000	0	寺婦研修旅行・若寺 婦研修会
2	1 会議費	350,000	350,000	0	代表者会・常任・編 集委員会
3	1 事務通信費	100,000	100,000	0	郵券料・事務消耗品
4	1 教化費	70,000	70,000	0	寺婦のひろば発行経費
5	1 回金	30,000	30,000	0	特別会計への回金
6	1 諸費	30,000	30,000	0	
7	1 予備費	90,000	30,000	60,000	
	合計	1,220,000	1,160,000	60,000	

2013(平成25)年度山陰教区寺族婦人会連盟特別会計歳計決算

歳入の部

款 項	費目	25年度決算	25年度予算	対比△減	説 明
1	前年度繰越金	312,163	312,163	0	前年度繰越金
2	回金	30,000	30,000	0	費目新設 一般会計からの回金
3	雑収入	0	837	△ 837	
	合計	342,163	343,000	△ 837	

歳出の部

款 項	費目	25年度決算	25年度予算	対比※超過	説 明
1	翌年度繰越見込金	342,163	343,000	△ 837	翌年度繰越見込金
2	回金	0	0	0	
	合計	342,163	343,000	△ 837	

2014(平成26)年度山陰教区寺族婦人会連盟特別会計歳計予算

歳入の部

款 項	費目	26年度予算	25年度予算	対比△減	説 明
1	前年度繰越金	342,163	312,163	30,000	前年度繰越金
2	回金	30,000	30,000	0	一般会計からの回金
2	雑収入	837	837	0	
	合計	373,000	343,000	30,000	

歳出の部

款 項	費目	25年度決算	25年度予算	対比※超過	説 明
1	翌年度繰越見込金	373,000	343,000	30,000	翌年度繰越見込金
2	回金	0	0	0	
	合計	373,000	343,000	30,000	

編集後記

桜のつぼみも膨らみ始める頃となりました。昨年は九月の東日本大震災復興支援旅行には十二名の皆さんが参加され、被災現況の見学や体験談を直接聞かれるなどして、テレビや報道で判ることよりも現地を訪れると自分のこととして考えさせられた、とのお話をお聞きして、身をもって体験することの大切さを教えていただきました。

身近な問題として感じることには若い世代の宗教離れです。法座のお参りも世代交代もままならず、葬儀も会館での家族葬が多くなり、新聞にも掲載されないことも多いようです。寺院を取り巻く環境だけでなく、世の中全体が変化していくような恐さを感じるこの頃です。今年度で寺族婦人会の役員交代となります。この三年間皆様に教えていただくことばかりで十分にお役に立つこともできませんでした。三年間「寺婦のひろば」にお力添えいただきありがとうございましたこと、編集委員一同よりお礼申し上げます。 合掌

